

ハーモニア

HARMONIA

キリンホールディングス株式会社

第174期 株主通信

2012年1月1日から2012年12月31日まで



おいしさを笑顔に

KIRIN

2013年、キリングroupは新たなステージへ!

特集

「キリン・グループ・ビジョン2021」、
「2013年-2015年中期経営計画」が始動

ブランドを基軸とした経営を通じて 自律的な成長を目指します。

当期の概況

■ 海外総合飲料、医薬事業の好調により 営業利益が過去最高を更新

2012年、キリングroupは、長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015」(略称:KV2015)の実現に向けた第2ステージである「2010-2012年キリングroup 中期経営計画」の最終年度として、引き続き収益性向上に取り組む一方、売上の拡大を目指してブランド力・営業力の強化とお客様への新たな価値の提案に力を注ぎました。

国内では、市場のさらなる成熟化に伴って需要喚起に向けた競争が激化しました。その中で当社グループでは、バリューチェーン全体での構造改革を継続すると共に、さらなる成長に向けて2013年1月にスタートする国内総合飲料新会社・キリン株式会社(以下、キリン社)の設立準備を進めるなど、「ブランドを基軸とした経営」による総合飲料グループ戦略に取り組みました。

海外では、オセアニアのライオン社が収益安定化

に取り組み、2011年からグループの一員となったブラジルキリン社^{※1}は、新経営体制の下で業績向上を達成するなど順調なスタートを切りました。

これらの結果、主にブラジルキリン社の損益取り込みや国内飲料事業の販売数量拡大などによって、2012年のキリングroupの売上高は増加しました。また、海外酒類・飲料事業での収益向上や、医薬事業の販売好調などによって、過去最高の営業利益を達成、経常利益も増加しました。さらに、前期に投資有価証券評価損や東日本大震災関連損失を計上した影響により、当期純利益も増加しました。

なお、業績を勘案した結果、1株当たりの期末配当につきましては、直近の配当予想から2円増配の15円50銭とすることといたしました。これにより、当期の年間配当は、中間配当13円50銭と合わせて前期比2円増配の29円となりました。

※1 2012年11月にスキンカリオールからブラジルキリンへ社名を変更しました。

次期の見通し

■ 海外総合飲料事業をグループ成長の牽引役に ■ 中核である日本総合飲料事業の再成長を目指す

キリングroupは、KV2015の下でグローバルに拡大した事業展開の状況や、経営環境の変化を踏まえ、2012年10月、新・長期経営構想「キリングroup・ビジョン2021」（略称：KV2021）、およびその最初のステージである「キリングroup 2013年-2015年中期経営計画」を策定しました（詳しくはP3-4にて説明しています）。初年度の2013年は、“自律的成長”の実現に向けて、持続可能な競争優位の源となる「ブランドを基軸とした経営」を各事業領域で確立・展開することによって、売上の拡大と収益性の向上を目指します。

日本総合飲料事業^{※2}においては、キリン社を中心とする新体制の下、各社一体となって長期的な視点に立った商品ブランドを育成し、グループ中核事業を再成長させます。また、各事業のマーケティングリサーチ機能を結集して商品ポートフォリオを見直し、酒類・飲料の枠を超えた戦略的な資源配分を大胆かつ柔軟に行います。さらに、各事業の研究開発機能を統合し、知見を融合することで、競争優位やコスト低減につながる技術開発と新たなカテゴリーやビジネスモデルの創造に挑みます。

海外総合飲料事業^{※2}では、各地域の成長ステージに応じた成果を創出し、グループ全体の成長を牽引すると共に、各地域統括会社間の連携を強化し、さらなるグループシナジーの創出を目指します。

ライオン社は、強化された商品群により売上成長を図ると共に、継続的なコスト削減による収益性向上に努めます。ブラジルキリン社は、ビール・飲料とも市場での存在感をより高めると同時に、引き続きバリューチェーン全体の効率化を進め、さらなる売上と収益の拡大を目指します。

東南アジアでは、2010年7月からシンガポールのフレイザー・アンド・ニーヴ社の約15%の株式を保有してきましたが、その後の株主構成の変化などを受け、2013年2月に保有

株式を売却しました。今後は、キリンホールディングスシンガポール社の下、引き続きベトナム、タイを中心とする各国市場における酒類・飲料事業の基盤構築を目指します。

医薬事業では、腎、がん、免疫・アレルギー、中枢神経のカテゴリーにおいて、国内競争力のさらなる強化を図ります。

これらの取り組みを通じて企業価値を高めることにより、株主様のご期待に添えるよう努力してまいります。引き続きキリングroupをご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

※2 新セグメント区分による名称です。セグメント区分の変更については、P10をご覧ください。

当期の業績と次期の業績予想

	2012年		2013年	
	実績	前期比	予想値	前期比
連結売上高	2兆1,861億円	+5.5%	2兆2,900億円	+4.7%
連結営業利益	1,530億円	+7.1%	1,550億円	+1.3%
連結経常利益	1,384億円	+1.2%	1,320億円	△4.7%
連結当期純利益	561億円	+658.7%	900億円	+60.1%
(参考)				
EBITDA [※]	3,073億円	—	3,160億円	+2.8%
1株当たり利益 [※]	117円	—	121円	+3.4%

※特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしております。

<用語解説> EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization

税引き前利益に支払い利息と減価償却費を加算したもので、グローバル企業における金利や税率、会計基準等の違いによる企業の見かけ上の利益格差を抑えるための指標として用いられ、広義のキャッシュフローを意味します。

2021年に向けたキリングroup長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021」と、その実現に向けた最初のステージである「キリングroup2013年-2015年中期経営計画」を策定しました。

長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021(KV2021)」の全体像

KV2021では、強化されたグローバル経営体制の下、各地域統括会社による自律的かつスピーディーな経営を通じた持続的な企業価値の向上を目指します。

2021年のビジョン

- ◆ お客様本位・品質本位に基づく価値作りで、人と人との絆を深める
- ◆ 多様な人々が生き活きと働き、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる企業グループとなる
- ◆ 「食と健康」の分野でグローバルな事業展開を行い、それぞれの地域に根ざした自律的な成長を遂げる

KV2021の経営モデル

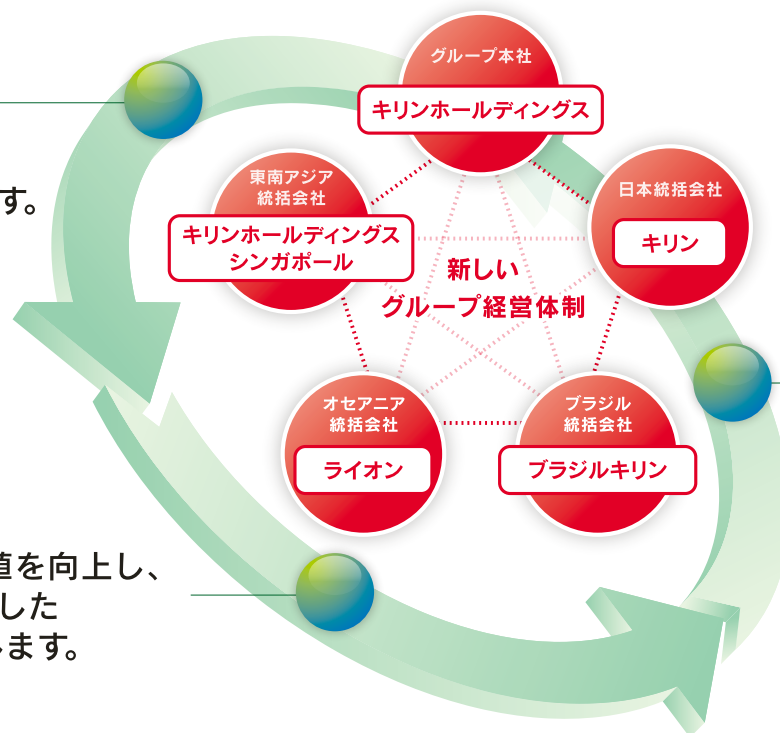
“自律的成長”

KV2015で踏み出した領域でそれぞれの事業が自律的に成長します。

各事業の自律的な成長は、お客様や社会に対する深い洞察力を磨いて、お客様や社会と共に、KIRINならではの新たなブランド価値を創造・蓄積していくことで実現します。

“企業価値向上”

自律的な成長を通じて企業価値を向上し、株主・投資家の皆様をはじめとしたステークホルダーに成果を示します。



“持続的成長”

成長と投資の好循環により持続的な成長を実現します。

「キリングroup 2013年-2015年中期経営計画」

2013年からの中期経営計画では、「ブランドを基軸とした経営」を持続可能な競争優位の源として確立・展開し、企業価値の向上を実現します。

「2013年-2015年中期経営計画」の基本方針

- ◆ キリングgroupの「ブランドを基軸とした経営」の確立・展開
- ◆ 海外での事業展開地域それぞれの成長性に応じた成果の創出
- ◆ 国内総合飲料事業再成長に向けた競争力強化と強いブランドの育成

定量目標

着実にキャッシュフローを創出します

EBITDA^{※1}
年平均1桁台半ば(%)の成長

収益性強化を通じた株主価値向上に努めます

1株当たり利益^{※1}
年平均1桁台後半(%)の成長

上記定量目標達成時の参考値^{※2} 2015年グループ連結売上高 23,000億円以上 営業利益 1,800億円以上

財務方針

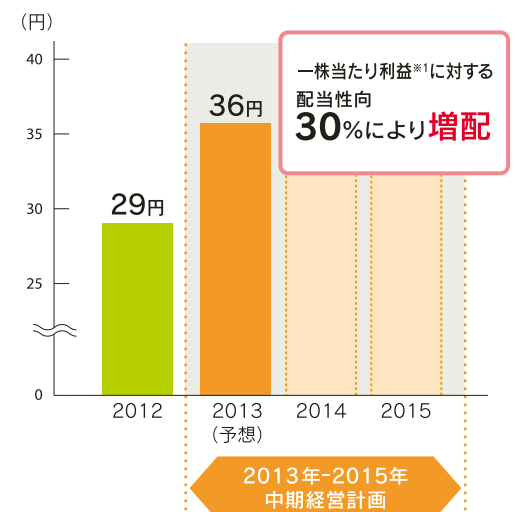
株主還元の充実を図ります

1株当たり利益^{※1}に対する
配当性向30%により増配

財務の柔軟性を向上させていきます

有利子負債の削減

1株当たり配当金



※1 特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしております。

※2 本中期経営計画より、1年ごとにアップデートします。

長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021」の下、
「2013年-2015年中期経営計画」の達成を目指し、
新たなステージへと進化するキリングroup各社トップからのメッセージです。

キリン社

KIRIN



代表取締役社長
磯崎 功典

キリングroup各社の強みを結集して 日本総合飲料事業の再成長を目指します

2013年1月に発足したキリン株式会社（以下、キリン社）は、事業会社であるキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャン各社と一体となって国内における総合飲料事業の再成長に挑みます。

お客様の嗜好や生活スタイル、価値観はますます多様化し、企業と社会の関わりも大きく変化しています。このような中で私たちはお客様や社会にとことん寄り添い、CSRを一步進めたCSV: Creating Shared Value（社会と共有できる価値の創造）を組み込んだ「ブランドを基軸とした経営」に徹底して取り組み、「あたらしい飲料文化をお客様と共に創り、人と社会に、もっと元気と潤いをひろげていく」ことを目指します。

新たな価値を創造し、商品ブランド、企業ブランドの価値を高める鍵は「人と組織」にあります。キリンビール社、キリンビバ

レッジ社、メルシャン社がそれぞれに培ってきたものづくりの精神や高い技術力などあらゆる強みを持ち寄り、掛け合わせ、従来の概念にとらわれない革新的な発想でワクワクする新しい商品やサービスを生み出します。キリングroupのグローバル共通

の価値観である“One Kirin” Values「熱意と誠意」を一人ひとりが意識し、多様性を尊重し、歴史や文化が異なる各社が一体となって常に新しい「価値創造」を生み出す自由闊達な組織風土を醸成します。

トピックス

グループ本社を中野へ移転、国内各社の本社組織拠点を集約

キリングroupは、2013年6月までにグループ本社を東京都中野区*に移転し、キリンホールディングス社、キリン社、キリンビール社、キリンビバレッジ社、メルシャン社をはじめとする国内グループ各社の本社組織を集約します。今回の拠点集約によって、グループ各社間のコミュニケーションの活性化および部門・組織を越えた連携強化を加速させていきます。

※「中野セントラルパークサウス」内



▶▶ ブラジルキリン社



Executive President
ジーノ・ディ・ドメニコ

革新的な飲料会社を目指して ブランド力を強化します

2012年は、ブラジルキリン社にとって大きなチャレンジの年でした。新しい経営体制の確立や中期経営計画の策定をはじめ、新商品や社名変更に際しての新しいコーポレート・ブランドの開発など、新会社のこれからの成長に向けた基盤づくりに取り組みました。

2013年は、さらにブランド力を強化して市場での存在感を高めると共に、スタッフの能力向上に力を注ぎます。ブラジルキリン社は、お客様に楽しさと喜びを提供する革新的な飲料会社を目指します。



トピックス

スキンカリオールからブラジルキリンへ



2012年11月12日、ブラジルのスキンカリオール社は、ブラジルキリン社へと社名変更しました。新会社の企業スローガン「THE POWER OF RESPECT」は、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーをリスペクト（敬意を払う、配慮する）するという企業姿勢を表しています。また、シンボルマークは「水」、「空気」、「大地」、「火」の4つの自然要素と、ブラジルカラーの緑と黄色を反映しており、その形は飲料製品の主要な原料である「水」の漢字をイメージしています。



▶▶ ライオン社



CEO
スチュアート・アーバイン
(2013年1月2日付で
新CEOに就任)

持続的成長を目指して、販売拡大と構造改革に取り組みます

新しくライオン社のCEOに就任した今年は、私にとって特別な一年になります。就任までの2ヶ月間は、前CEOと一緒にたくさんの事業拠点を訪問しました。多くの従業員と会い、様々な製品に触れたことで、ライオン社のことを理解する絶好の機会となりました。

ライオン社は、2013年も持続的な成長を実現できると考えています。酒類事業では、新たに獲得した輸入プレミアムブランドやクラフトビール（地ビール）の販売拡大、そして飲料事業では、清涼飲料ブランドの確立に向けた取り組みに大いに期待しています。



Brazil

Oceania

日本総合飲料事業
新提案のご紹介

あたらしい飲料文化をお客様と共に創り、
人と社会に、もっと潤いと元気をひろげていきます。

キリンビール



“のどごし 夢のドリーム”スタート!

「キリン のどごしく生」のおいしさを磨き、
あなたの夢と一緒にかなえる

2013年2月、新ジャンルで圧倒的な販売量を誇る「キリン のどごしく生」をリニューアルしました。2005年4月の発売以来、6回目となる今回のリニューアルでは、「フレッシュ酵母製法」を採用して“うまさ”と“のどごし”をさらに磨き上げました。これに先駆けて、広告では、お客様と一緒に夢を実現する新たな取り組み“のどごし 夢のドリーム”をスタート。たくさんの応募の中から選ばれたお客様の夢を実現する様子を、CMや「キリン のどごしく生」のウェブサイト*を通じてお伝えしています。

※「キリン のどごしく生」ブランドサイト <http://www.kirin.co.jp/brands/nodogoshi/>



キリンビール

“ビールって、おもしろい”

新提案!!「キリン一番搾り生ビール」で楽しむビアカクテル

ビールの新しい楽しみ方として、2013年3月から、ビアカクテル「一番搾り ツートンく生」を提案しています。リキュールやジュースなどを入れたグラスに、当社が独自開発した「ツートンメーカー」をセットして「キリン一番搾り生ビール」を注ぐだけで、2層に分かれた色鮮やかなビアカクテルを簡単につくることができます。

2012年から展開を開始し大好評の新食感の生ビール「一番搾り フローズンく生」や、「一番搾りスタウト」を温めた「ホットスタウト」などの新提案と共に、ビールの楽しさを一層広げていきます。

一番搾り
ツートンく生



メルシャン

“今度はロゼで!”

「フランチア ペットボトル ロゼ」新発売

ワイン販売量世界No.1※ブランド「フランチア」から、近年、日本国内で注目が高まっているロゼワインの新商品「フランチア ペットボトル ロゼ」を2013年2月に発売しました。フレッシュ＆フルーティな味わいとベリーを感じさせるチャームな香りが特長で、軽くて割れにくくて捨てやすい「ワインのためのペットボトル」を使用しています。「フランチア」は、豊富な商品ラインアップで、これからもワインをもっと身近に、もっと楽しくするきっかけを提案していきます。

※単一ブランドとして17年連続ワイン販売量世界No.1 (IMPACT DATABANK 2011 EDITIONによる)



品質と使いやすさを考慮した
「バッグ・イン・ボックス」



キリンビバレッジ

“おにぎり公式飲料”宣言!

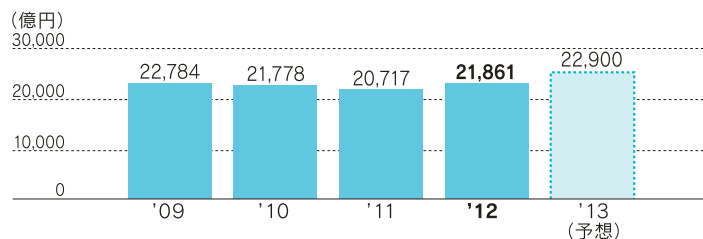
「午後の紅茶 おいしい無糖」がさらに爽やかな無糖飲料に進化

食事に合う無糖紅茶として2011年に発売した「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」は、2012年は日本食のシンボルである「おにぎり」との相性の良さを訴求し、発売以来の累計販売数量が509万ケースを突破しました。2013年はさらなる訴求を図るべく“おにぎり公式飲料”であることを宣言し、昨年以上に大々的にアピールをしていきます。また、軽やかで清々しい香味のダージリン茶葉の使用量を従来の1.4倍に増やして、本格紅茶の味わいと爽やかな飲み心地に一層磨きをかけました。

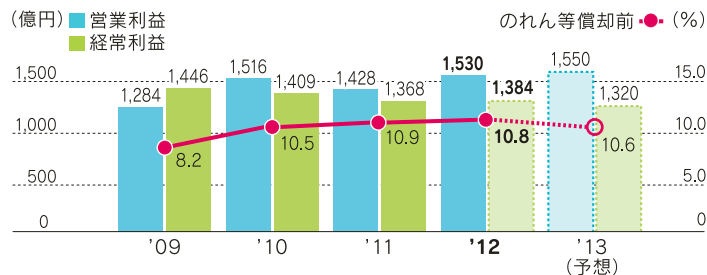


業績ハイライト

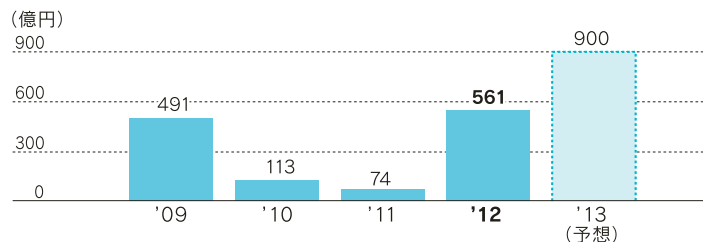
連結売上高



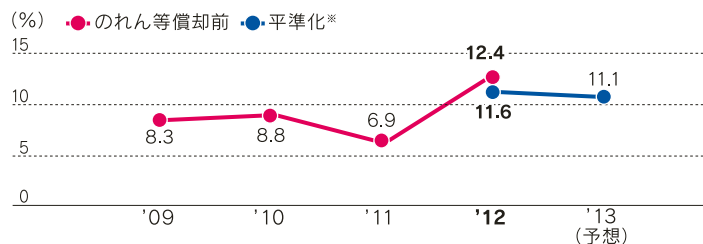
連結営業利益・連結経常利益・連結営業利益率



連結当期純利益

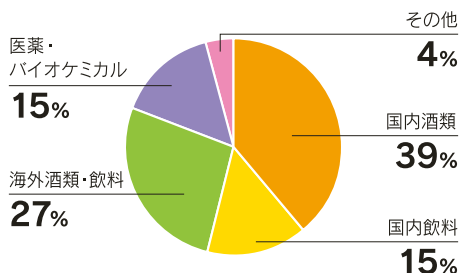


ROE

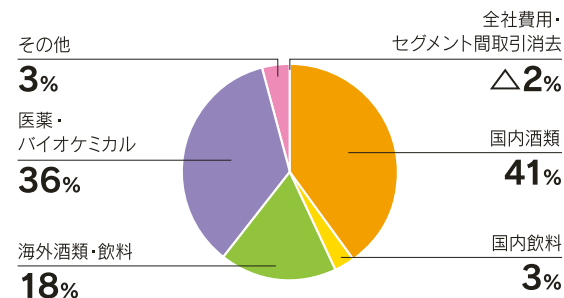


※のれん等償却額や特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしております。

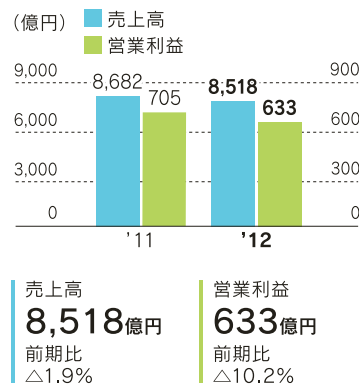
セグメント別売上高 (2012年)



セグメント別営業利益 (2012年)



国内酒類事業



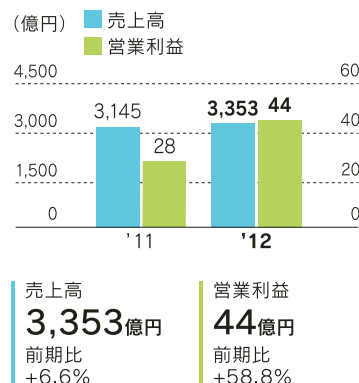
基盤ブランドの強化と新価値創造を推進

キリンビール社では、選択と集中により基盤ブランドの強化を図ると共に、「一番搾り フローズンく生」など新たな飲み方の提案を行いました。ブランド育成に積極的に取り組んだものの、競争環境が厳しさを増す中で、ビール・発泡酒・新ジャンル合計の販売数量は前年を下回りました。

メルシャン社では、デイリーワインを中心に販売が好調に推移し、国産・輸入とも前年を上回りました。

これらの結果、売上高、営業利益とも減少しました。

国内飲料事業

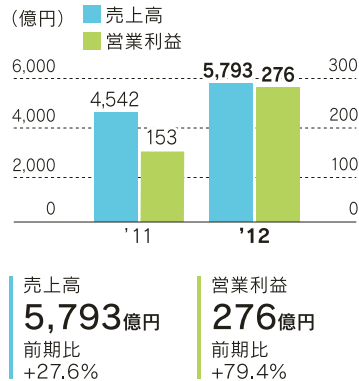


市場平均を大きく上回る販売拡大を実現

キリンビバレッジ社では、特定保健用食品で初めてのコーラ系飲料「キリン メッツ コーラ」が大きな反響を呼びました。また、「キリン 午後の紅茶」は、無糖タイプの好調などによって、3年連続で過去最高の販売数量を記録しました。さらに、「キリン 世界のKitchenから」シリーズや、水カテゴリーの販売好調もあり、販売数量は前年を大きく上回りました。

これらの結果、売上高、営業利益とも増加しました。

海外酒類・飲料事業

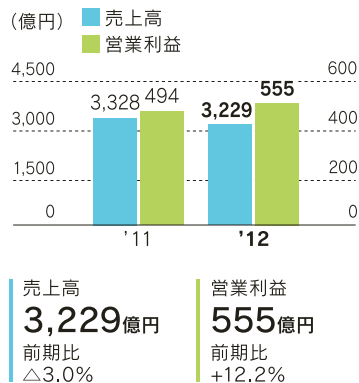
豪州酒類事業が好調に推移、
ブラジルも順調なスタート

豪州ライオン社の酒類事業では、主力ブランドの堅調な販売や新たに獲得したブランドの貢献などにより、販売数量が前年を上回りました。飲料事業は、中期的な収益性改善に向けて構造改革を進めました。

また、ブラジルキリン社は、主力ブランドのビールや炭酸飲料の販売好調により、酒類・飲料とも販売数量は前年を大きく上回り、売上も拡大しました。

これらの結果、売上高、営業利益とも増加しました。

医薬・バイオケミカル事業



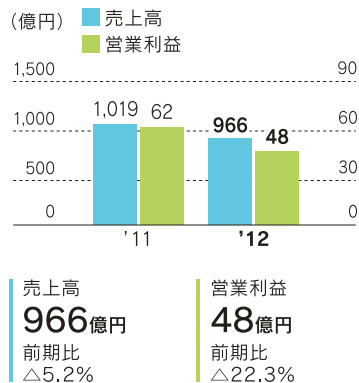
主力医薬品の販売が好調に推移

協和発酵キリン社の医薬事業は、薬価基準引き下げの影響があったものの、主力の腎性貧血治療剤などの国内販売が好調に推移し、輸出も堅調だったことから売上高が前年を上回りました。

バイオケミカル事業は、医薬・医療用アミノ酸・核酸関連物質などの高付加価値品の海外需要が旺盛だったものの、売上高は円高の影響を受けました。

これらの結果、売上高は前年3月末に化学品事業を連結から除外した影響もあり減少しましたが、営業利益は増加しました。

その他事業

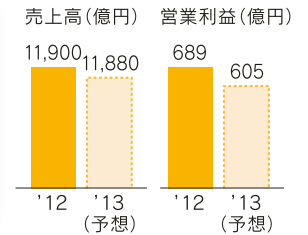


キリン協和フーズ社の中食・外食用事業が堅調に推移した一方、主力の加工用事業において市場全般が低迷したことや、うま味調味料における海外市場の競争環境が厳しくなったことなどにより、その他事業全体としての売上高・営業利益とも前年を下回りました。

2013年セグメント別※業績予想

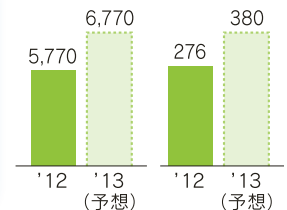
日本総合飲料

主な構成会社
キリン、キリンビール、
キリンビバレッジ、
メルシャン

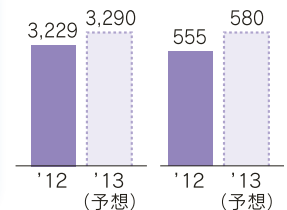


海外総合飲料

主な構成会社
ライオン、ブラジルキリン、
キリンホールディングス
シンガポール

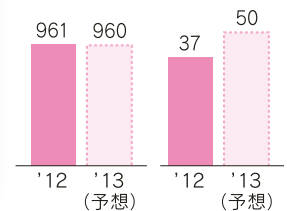
医薬・
バイオケミカル

主な構成会社
協和発酵キリン



その他

主な構成会社
キリン協和フーズ



※セグメント区分の変更: 2013年1月に国内の総合飲料事業の統括会社としてキリン(株)を設立し、事業会社(キリンビール(株)、キリンビバレッジ(株)、メルシャン(株))と一体となって事業を推進する新体制を整備しました。体制の変更により、セグメント区分の「国内酒類」「国内飲料」は「日本総合飲料」に統合しました。また、「海外酒類・飲料」は「海外総合飲料」に名称を変更しております。

連結損益計算書の概要

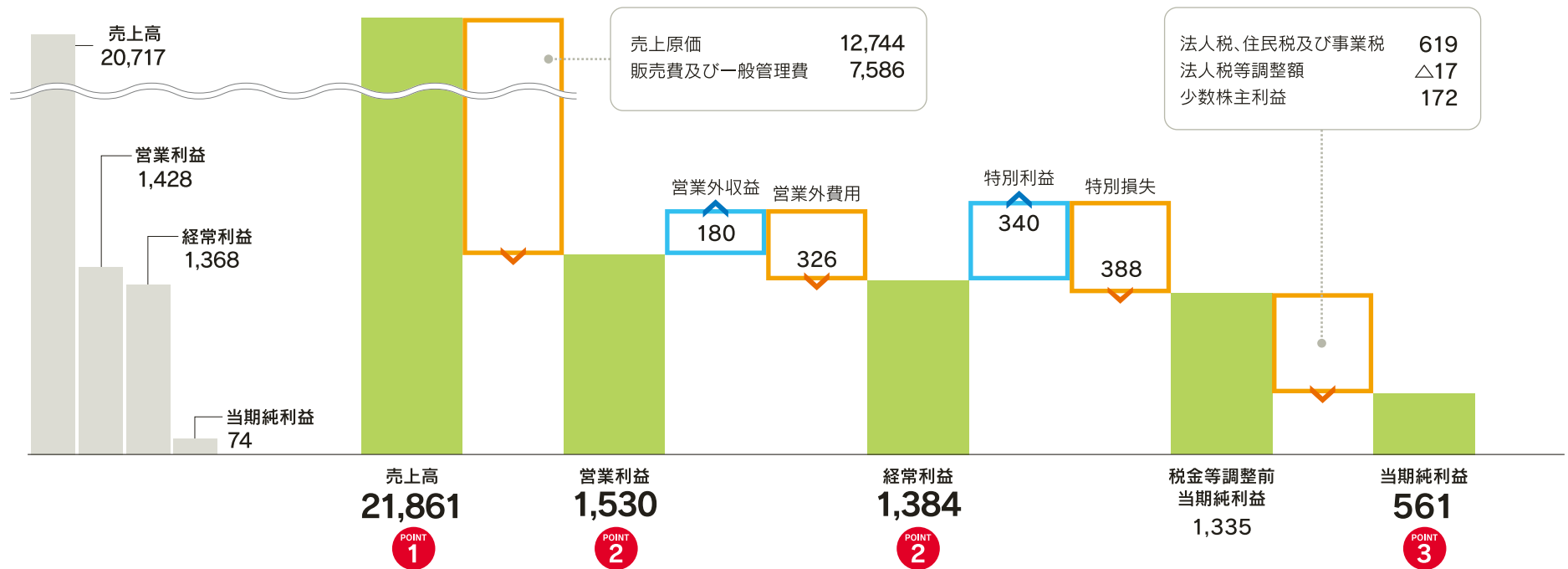
前期

(2011年1月1日～2011年12月31日まで)

当期

(2012年1月1日～2012年12月31日まで)

(単位:億円)



POINT 1 売上高

主に海外酒類・飲料事業でのブラジル麒麟社の損益取り込みや国内飲料事業における販売数量増により増加しました。

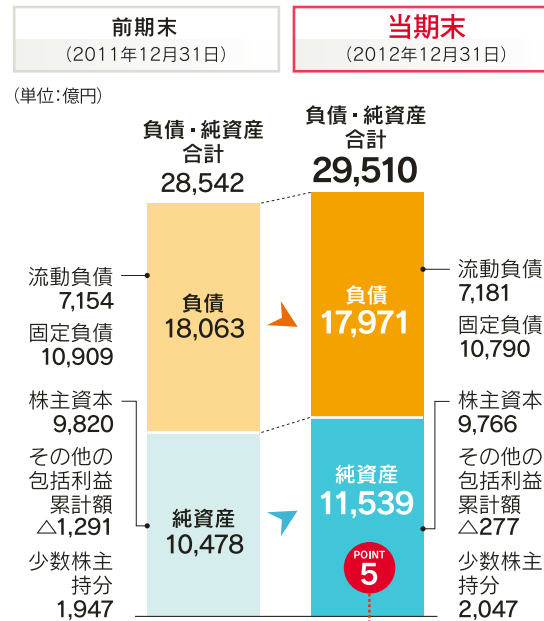
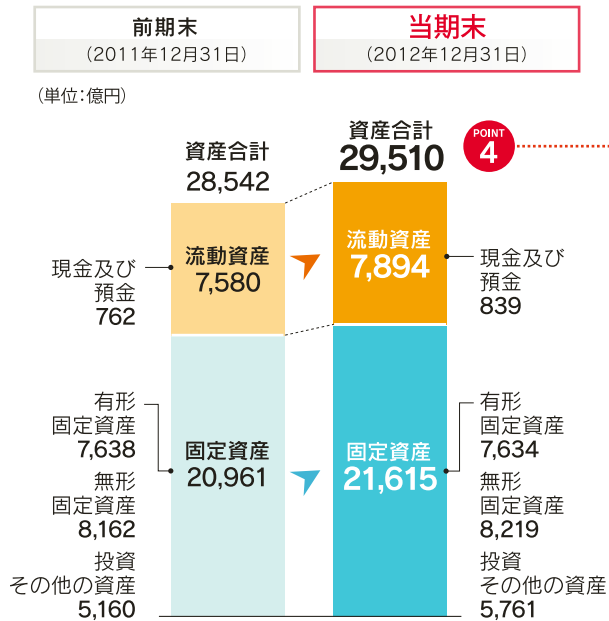
POINT 2 営業利益／経常利益

海外酒類・飲料事業での収益向上の実現や医薬事業における販売好調などにより増加しました。

POINT 3 当期純利益

前期に投資有価証券評価損や東日本大震災関連損失を計上した影響などにより増加しました。

連結貸借対照表の概要



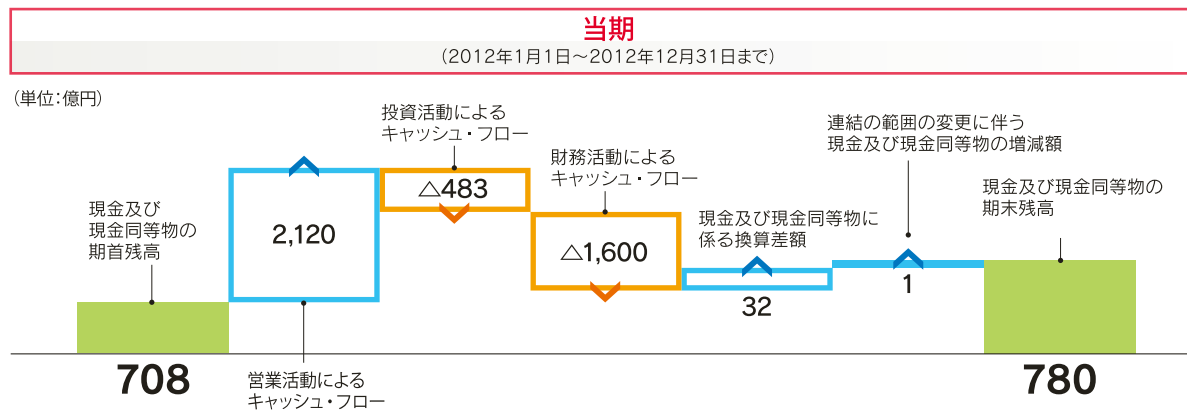
POINT 4 資産

主に保有株式時価評価による投資その他の資産の増加により968億円増加しました。

POINT 5 純資産

主に為替変動による為替換算調整勘定の増加やその他有価証券評価差額金の増加により1,060億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



POINT 6 キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加などにより2,120億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形及び無形固定資産の取得により、483億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済やコマーシャル・ペーパーの減少などにより、1,600億円の支出となりました。

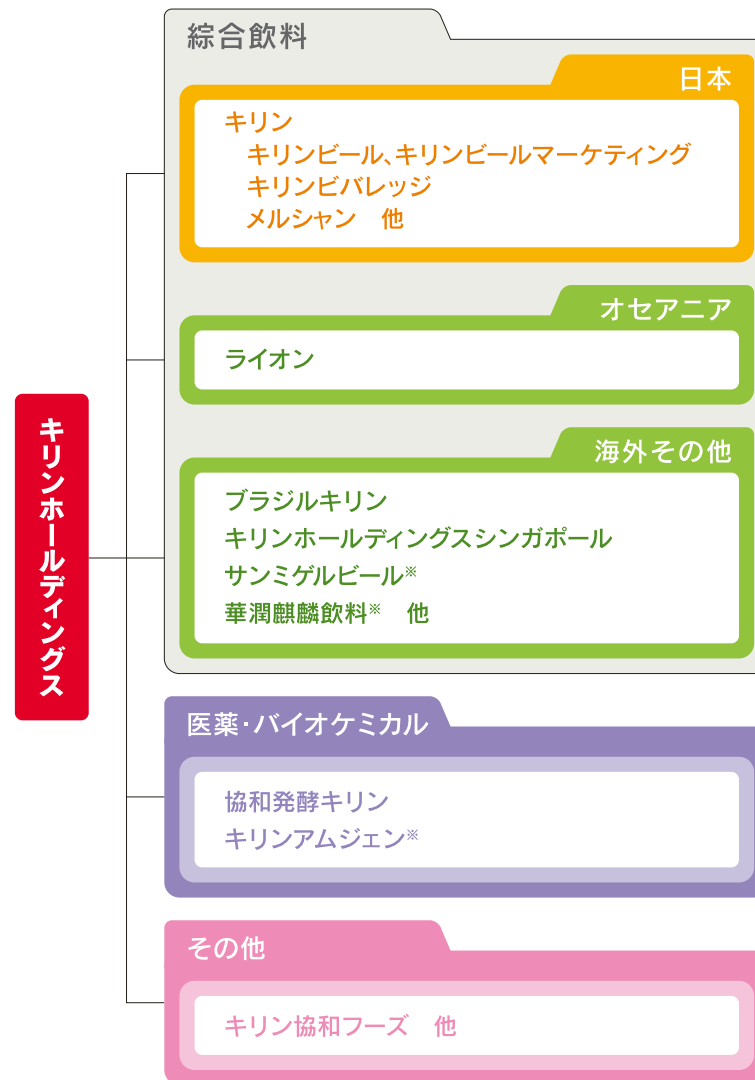
会社概要 (2012年12月31日現在)

商号	麒麟ホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	256人(麒麟ホールディングス連結従業員数:41,246人)
本社所在地	〒104-8288 東京都中央区新川二丁目10番1号
売上高	2,186,177百万円(2012年12月期麒麟ホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略策定及び経営管理

役員 (2013年3月28日現在)

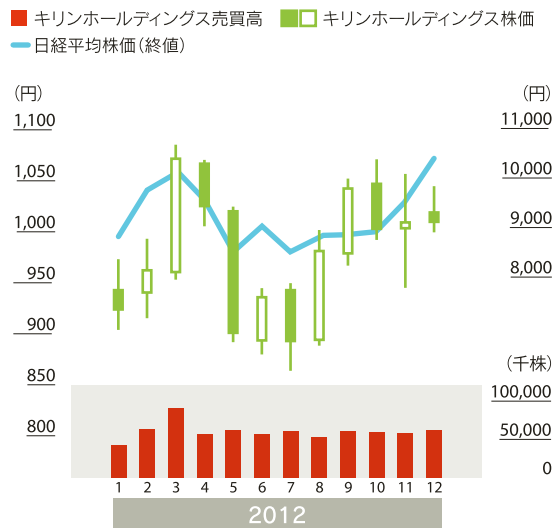
代表取締役社長	三宅 占二	常勤監査役	鈴庄 一喜
代表取締役常務取締役	小林 弘武	常勤監査役	百武 直樹
代表取締役常務取締役	中島 肇	社外監査役	手塚 一男
常務取締役	鈴木 徹	社外監査役	大根田 伸行
取締役	鈴木 政士	社外監査役	岩田 喜美枝
取締役	西村 慶介		
社外取締役	三木 繁光		
社外取締役	有馬 利男		

グループ会社一覧 (2013年1月1日現在)

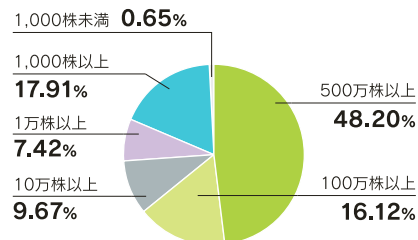


※持分法適用関連会社

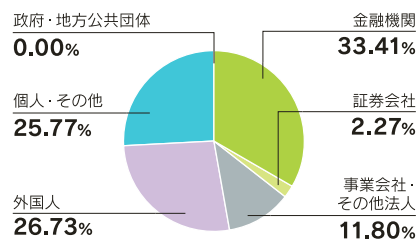
日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所)



所有株数別分布状況



所有者別分布状況



発行済株式総数 965,000,000株

株主数 137,715名

大株主 (千株未満を切り捨て、小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	50,519	5.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	47,324	4.90
明治安田生命保険相互会社	35,046	3.63
株式会社磯野商会	23,272	2.41
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505041	19,175	1.98
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	18,698	1.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	18,179	1.88
ザチース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカunt	15,848	1.64
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	11,621	1.20

株主様ご優待

1年に1回、12月末時点において単元株(1,000株)以上を保有する株主様にキリングループ商品などのご優待品をお贈りしています。

2012年12月期 ご優待の内容

各種優待品の中から一つ選択していただきます。

①キリンビール 商品詰め合わせ

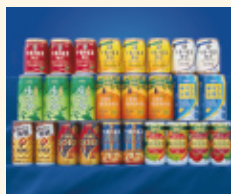
酒類/ノンアルコール飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

②キリンビバレッジ 商品詰め合わせ

清涼飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

③ビール・清涼飲料 詰め合わせ

キリンビールの「キリン一番搾り生ビール」とキリンビバレッジの清涼飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

④オーストラリアワイン 詰め合わせ

メルシャンが輸入する、オーストラリアワインのセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

⑤スープ・味噌汁 詰め合わせ

キリン協和フーズのフリーズドライ商品詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

⑥キリンカップサッカー メモリアルTシャツ

キリンカップサッカーの優勝杯をモチーフにした株主様限定オリジナルデザインTシャツです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

⑦「キリン飲運転帳絶募金」 へのご寄付

ご希望の株主の皆様から商品の代わりに3,000円を寄付金としてお預かりいたします。

詳細について

詳細につきましては、毎年3月初旬、対象の株主様宛に送付される「定時株主総会招集ご通知」に優待申込書が同封されていますのでご確認ください。

株式に関する手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
● 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故 その他やむを得ない事由によって電 子公告による公告をすることができ ない場合は、日本経済新聞に掲載し て行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503

